



外国籍児童生徒のための「プレクラス」設置と「学びの多様化学校」の設置について

柴田 信 議員



質問 本市における外国籍児童生徒のための「プレクラス」について問う。

答弁 近年、外国籍児童生徒の転入が増加し、日本語指導を必要とする児童生徒が増えています。その中には言葉や生活習慣の違いから、学校生活への適応に困難を抱える児童生徒も多く、初

期段階のつまずきが、その後の学校生活への不安や学習の遅れにつながる懸念が懸念されます。このような状況を踏まえ、初期の日本語指導及び学校適応指導を集中的に行うこと、指導員や子ども同士の関わりを通じて、安心感や自己肯定感を育むことを目的として、教育研

究所内に日本語学習プレクラス「つつじみらい教室」を設置するものです。成果指標としては、在籍校へ本格的に登校してから3か月間の登校継続率の確認や、必要に応じて在籍校担任に学校適応状況のヒアリングを行うなどの検証を行います。

質問 本市における「学びの多様化学校」の取組について問う。

答弁 文部科学省が推進する「学びの多様化学校」いわゆる不登校特例校では、

摘や改善を求められたのか伺います。

答弁 日本遺産を活用して課題をどう解決し、観光振興や地域活性化につなげる

のか、その方向性の明確化と具体化、併せて持続可能な自然資源の保全方法を検討し、具体化すること。里

沼が育んだ文化を基に、産業創造や経済活性化の方向性を示すこと。里沼の環境やブランドの質を守る方策と体制の充実を図ること。これらが主な指摘事項です。

質問 学校適正規模・適正配置基本方針（案）において、適正規模にするメリットを伺います。

答弁 クラス替えが可能になることにより、児童生徒が多様な人間関係を構築でき、集団の中で多様な考え方に触れることで、表現力や思考力、判断力、問題解決能力などを育み、社会性や規範意識を身につけることができる環境が整います。

また、学年ごと、教科ごとに複数の教員の配置が可能

在籍する児童生徒が、個々の実情にあわせた教育を受けながら、通常の小・中学校や高等学校と同様の卒業資格を取得することが可能であり、不登校児童生徒支援の社会的自立に向けて、新たな選択肢になるものと捉えています。学校に行きたくても行けない子ども達の学ぶ権利を保障することは、行政としての重要な責務と考えており、本市の不登校児童生徒が増加傾向にある中で、これまでの支援策だ

けでなく、学びの多様化学校の設置について研究をしていく必要もあると考えています。一方で、実際に学びの多様化学校を設置、運営するためには、既存施設の活用や新設を含めた設置場所の選定、専門的なスキルを持つ教職員の確保、継続的な運営に係る予算の確保などの課題があげられます。先進事例を参考にしながら、本市の実情に即した導入が可能か研究を進めていきたいと考えます。

となり、教員同士が連携した指導方法の改善や、きめ細かな指導を可能にする教員数が確保されることも重要な効果です。

質問 学区再編を含めた適正配置を、何年後に達成するといった目標を掲げていくのか伺います。

答弁 地域の実情や保護者の皆様のご意見を踏まえながら、エリアごとの基本計画を策定していく中で、達成目標年度についてお示しできればと考えています。



日本遺産「里沼」について 学校適正規模・適正配置について

岩上 博志 議員



質問 館林には様々な観光資源がありますが、今後、「面白いだろうな」と検討している取組を伺います。

答弁 本市が舞台の一つになっているテレビアニメ「宇宙（そら）よりも遠い場所」、通称「よりもい」のマンホール製作を進めています。将来的には、よりもい

の図柄のマンホールを実際に設置し、アニメファン等に足を運んでもらい、市内の各スポットを回遊してもらおうと計画しています。

質問 文化庁による日本遺産「里沼」の総括評価・継続審査が行われ、無事に「認定継続」となりました。審査において、どのような指